

1月20日：流動性が低い中、ベトナム株は下落

市場は材料不足でほぼ横ばいの動きだったが、引けにかけてわずかに下落した。

ホーチミン取引所のVN指数は0.03%安の978.63ポイントで取引を終えた。

同指数は金曜日に0.48%上昇し978.96ポイントで取引を終えていた。

出来高は1億4880万株で売買代金にして3.9兆ドンであった。

VN30指数は0.29%高の897.40ポイントで取引を終えた。30銘柄の内の10銘柄が下落した。

セクターごとにまちまちの動きが続いていた。

卸売り、保険、不動産、証券、IT、石油ガス、銀行、農業、ゴム製品、飲食料品、運輸は下落した。

一方、小売、水産加工、建設、ヘルスケアなどは上昇した。

上昇した大型株は、VPバンク(VPB) (+2.7 per cent), ホアファットグループ(HPG) (+2 per cent), モバイルワールドインベストメント(MWG) (+2.2 per cent), サイゴンビール(SAB) (+0.6 per cent), ビナミルク(VNM) (+0.3 per cent), ベティンバンク(CTG) (+0.6 per cent), ペトロベトナムガス(GAS) (+0.2 per cent) and フーニユアンジュエリー(PNJ) (+1.4 per cent)などであった。

一方、下落したのはベトコムバンク(VCB) (-0.5 per cent), ビンコムリテール(VRE) (-1.8 per cent), マッサングループ(MSN) (-1.3 per cent), ベトナム投資開発銀行(BID) (-0.4 per cent), ベトジェット航空(VJC) (-0.8 per cent) and バオベトホールディングス(BVH) (-0.8 per cent)などであった。

バオベト証券によると、2010年以降のテト前の10営業日は上昇ラリーになっている。10年間で9回上昇しており平均の上昇率は4.57%となっている。

しかしながら、流動性がこの期間の下落の兆候を示していることもある。流動性で言うと出来高が上昇したのは3回のみで売買代金が上昇したのは4回のみである。平均の下落幅は出来高で16.43%、売買代金で17.25%である。と同社は語る。

投資家はテト休暇中の借入れを避けるためにローンを調整している。そして、テト休暇後には出来高と売買代金が大きく上昇している。

10年中8回、VN指数は上昇しており平均の上昇幅は4.31%だった。出来高と売買代金も多くの年で大幅に上昇していた。

バオベト証券によると、投資家はテト休暇前に株を買って優位に立つことが出来る。また、投資家はテト後も80%の確率で上昇するためポートフォリオをテト休暇を通して維持することが出来る。テト後には出来高と売買代金の増加が相場を支えると思われるとのことだった。

ハノイ取引所のHNX指数は0.73%上昇し104.64ポイントで取引を終えた。

HNX指数は金曜日に103.88ポイントで取引を終えていた。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられるFiinProという情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利はJSIに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。